



『We 鏡中』

令和7年 12月 17日

☆スマイルロードの校門前に花苗を植えました

12/9(火)の放課後、放送でボランティアを募り、地域の皆様と一緒につつじ等の剪定作業をしたスマイルロードの校門前に、花苗を植えました。学年関係なく多くの生徒がボランティアに参加してくれました。最後の水やりまで頑張ってくれました。



花苗はノースポールなので、来年3月の卒業式頃から4月の入学式頃まで、白い花が咲いてほしいと考えています。卒業式・入学

式に白い花で祝うことが出来ればいいなと期待しています。

花苗を植えたのは、12/9(火)ですが、固く踏み固められた場所を耕してくれたのは、11/30(日)の地域の皆様と一緒にボランティア活動をしたときに参加してくれた生徒です。多くの生徒の思いがこもった花がお祝いにはふさわしいと思っています。

☆スマイルロードの校門前に植えた花苗が自転車で…

12/12(金)朝の挨拶運動を校門前でしているときに、自転車で登校していた生徒が花苗の上を自転車で踏んで通って行きました。(白黒ではわからないと思いますので、HP等のデジタル版をご覧ください)自転車小屋から玄関に行こうとしていた生徒を呼び止め、現場まで連れていき「この状況をどう思うか？」と問いただしました。『しまった』という顔をしていましたが、反省や謝罪の言葉が直ぐには出てこなかったのが、「これは多くの鏡中生がボランティアで整備してく



れた花苗で、こうしたことは、人の思いを踏みにじることだから、『申し訳なかった』という気持ちはあるか？」ときくと、「はい」と言ったので、「そのことがわからないのなら、だれからも相手にされなくなるので、それがわかっているなら次からしないように」と伝えました。

☆「リカバリーすることの大切さを学んでほしい…」

今回の自転車で花苗を踏んだ生徒の対応を見て、鏡中の生徒には『リカバリー』の仕方・大切さを学んでほしいと切に思いました。

私はゴルフをしますが、ゴルフでは社会生活を送っていく上での知恵が詰まった言葉が使われているように感じます。特に私が気になる言葉としては、『ハンディキャップ』や『リカバリー』という言葉があります。

今回は、その中の『リカバリー』ということについて考えて欲しいと思います。『リカバリー』という言葉の辞書で引けば、“回復する”という意味で説明されています。ゴルフでは、打ち損ねて失敗したときに、挽回するための一打を“リカバリーショット”と表現されます。

私を含めて人間はたくさんの失敗をします。というより、失敗の連続ですが、その失敗をしたときにどのように“リカバリー”できるかが問われているのではないかなと思うのです。

失敗をしないように行動するのが大原則なのですが、それでも失敗をするのが人間です。失敗をしない人間はいません。そして、失敗をした時に、どのように行動するかで、その人の成長が大きく変わります。大人になると、失敗をした時の行動で、その人が評価され、判断されます。いかに「リカバリー」するかが問われていると思っています。

失敗したときに「リカバリー」する行動は、シラを切ることでも、隠すことでも、ごまかすことでもありません。学生時代はこのリカバリーの仕方を学ぶ時期だとも思います。

失敗した時に自ら名乗り出て叱られることは、きちんとリカバリーする行動ですが、たまに、他の級友は名乗り出たのに自分だけ名乗り出ることが出来ない生徒がいます。その生徒は、「自分だけ叱られなかった」と心から喜べるでしょうか。私なら「あいつは自分から名乗り出て偉い。それなのに自分は…」となりそうです。または、自分の人間としての器の小ささを嘆き、次は…と思うかもしれません。もしかすると、「自分から名乗り出たあいつは、名乗り出ることが出来なかった自分のことをなんて思っているだろう」と思うかもしれません。

失敗をマイナスにするかプラスにするかは、失敗後の対応にかかっています。失敗をプラスにするリカバリーの方法を身につけて欲しいと思います。また、リカバリー方法がよくないのであれば、そのときは「このようにした方がよい」とアドバイス出来るので、人の言うことを聴くという姿勢も大切です。このような対応ができれば、働くようになって失敗しても、大丈夫だと思いますし、失敗したときに対応の良さから、逆に信頼されるようになるかもしれません。聴く耳を持っている人には、アドバイスしやすいですが、聴く耳を持たない人には、良いアドバイスを受ける機会もありません。アドバイスを受けて、より良いリカバリーが出来るように、中学校にいる間に学んでほしいです。

以前、担任していた時のことですが、高校の体験入学の申込締め切り日に、朝、教室に行くと一人の生徒がやってきて、「先生、すみません、体験入学の申込書を忘れました。今日の放課後、家に帰ってから持ってきてもいいでしょうか？」と言いました。

この生徒は、申込書を忘れるという失敗をしたのですが、きちんと『リカバリー』しています。同じ失敗をしたとき、どのような言動をするか、いくつかの場合が考えられます。

- ①黙って何も言わないで放っておく。
- ②「忘れました。」とだけ言う。
- ③「忘れました。どうしたらいいですか？」という、3つのパターンが多いです。

それぞれの対応方法について考えると、

- ①については、論外でリカバリーどころか、ますます失敗の傷口を広げています。
- ②は、自分の非を認めているだけで、その後どのようにリカバリーするのかがわかりません。
- ③は、自分の非を認めているけれど、その後の対応を自分で考えず、丸投げ状態になっています。

それで、その時、私に言ってきた生徒の対応を考えてみれば、まず、“謝罪（すみません）”があり、次に“自分の非を認め（忘れました）”でいて、さらに“失敗をリカバリーするため”に自分に出来ることを述べて、それでいいかどうかを確認していることがわかります。

この生徒のリカバリーの対応に接し、私は『自分が同じようなりカバリーは出来なかっただろう』と思いました。生徒の素晴らしい対応から学ばせてもらったと感じ、本当にその生徒に感謝したことがあります。生徒の言動からも学べる、教師の役得だと思いました。